

SPORTEC2022 出展報告

ー東海大学スポーツプロモーションセンター・ ウェルネスカレッジのブース出展を中心にー

秋吉遼子^{*1}・萩裕美子^{*1}・山田洋^{*2}・押見大地^{*1}・風間公彦^{*3}・伊藤栄治^{*1}・

田巻以津香^{*4}・松下宗洋^{*4}・西垣景太^{*5}・遠藤慎也^{*5}・内田匡輔^{*2}・

川邊保孝^{*3}・小山孟志^{*6}

SPORTEC 2022 Exhibition Report: Focused on booth of the Sports Promotion Center & College of Wellness in Tokai University

by

Ryoko Akiyoshi, Yumiko Hagi, Hiroshi Yamada, Daichi Oshimi, Kimihiko Kazama, Eiji Ito,
Itsuka Tamaki, Munehiro Matsushita, Keita Nishigaki, Shinya Endo, Kyosuke Uchida,
Yasutaka Kawabe, Takeshi Koyama

Abstract

This paper will report on a joint exhibition hosted by the Tokai University Sports Promotion Center and Wellness College at SPORTEC 2022, Japan's largest sports industry exhibition, which was held at Tokyo Big Sight from July 27 to 29, 2022. As Tokai University's exhibition was a collaboration between the Sports Promotion Center and Wellness College, it was organized by a cross-organizational executive committee, which consisted of a total of 17 members, and which included both faculty and staff. In order to promote Tokai University, the Sports Promotion Center, Wellness College, and the executive committee discussed how to fully emphasize the University's strengths in terms of research, education, and business. Specifically, the committee considered which information to promote and in what manner, and as a result, decided to include posters on six themes. It is estimated that the University's

*1 東海大学体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科 *2 東海大学体育学部体育学科 *3 東海大学スポーツプロモーションセンター

*4 東海大学体育学部生涯スポーツ学科 *5 東海大学健康学部健康マネジメント学科 *6 東海大学体育学部競技スポーツ学科

exhibition had a total of about 380 visitors. These visitors included faculty, staff, and students of the University, and visitors from companies, local governments, alumni, and acquaintances with personal ties to the University. As a result of actively exchanging business cards with booth visitors, a total of 198 business cards were received.

I. はじめに

2022年7月27日から29日に東京ビッグサイトにて、SPORTEC2022が開催された。本学は、スポーツプロモーションセンターとウェルネスカレッジ（体育学部、健康学部、体育学研究所、スポーツ医科学研究所）が協働して出展したため、本稿ではその報告を行う。

II. SPORTEC2022 の出展

1. SPORTEC2022 の概要

日本最大のスポーツ・健康まちづくり総合展である SPORTEC2022 は、「第4回スポーツサイエンステクノロジーEXPO」や「第8回スポーツイベントサービス EXPO」等の11の展示会で構成されていた（写真1）。主催は、SPORTEC 実行委員会とゴルフパフォーマンスコンベンション実行委員会であり、出展社数は477社であった。健康・体育・スポーツ系大学の出展も年々増加し、13件あった。会期中（3日間）の来場者数は、受付登録入場者28,967名と報道関係者入場者数215名の計29,182名であった¹⁾。

会期中はセミナーも豊富に開催され、136セッションのセミナー・イベントが開催された。初日には、スポーツ庁長官の室伏広治氏がセミナーに登壇した。

本学は、ブースの出展とセミナーを行った。セミナーは、スポーツアカデミーフォーラムにおいて、7月28日12時30分から13時30分に、会場とオンラインのハイブリッド形式で行った。タイトルは「“ハイパフォーマンス”と地域スポーツのさらなる融合：新たな地平を見据えて」で、高野進教授（体育学部競技スポーツ学科）、井上康生教授（スポーツプロモーションセンター）、勝田隆教授（体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科）が登壇した。こちらの報告は別報に譲る。



写真1. SPORTEC2022 入り口看板

2. ブース出展の概要

1) 実行委員会の組織体制

本学は、スポーツプロモーションセンター・ウェルネスカレッジとして出展したため、組織横断的な実行委員会となり、教職員交えた総勢17名からなる組織であった（表1）。

表1. 東海大学スポーツプロモーションセンター・ウェルネスカレッジ実行委員会

役職	氏名	所属
顧問	萩 裕美子	体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科 体育学研究科
実行委員長	山田 洋	体育学部体育学科 体育学研究科/スポーツ医科学研究所
副実行委員長	押見 大地	体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科 体育学研究科
実行委員	風間 公彦	スポーツプロモーションセンター
	伊藤 栄治	体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科 スポーツプロモーションセンター
	川邊 保孝	スポーツプロモーションセンター 体育学研究科
	内田 匡輔	体育学部体育学科 体育学研究科
	田巻 以津香	体育学部生涯スポーツ学科
	小山 孟志	体育学部競技スポーツ学科 体育学研究科/スポーツ医科学研究所
	松下 宗洋	体育学部生涯スポーツ学科 体育学研究科/スポーツ医科学研究所
	西垣 景太	健康学部健康マネジメント学科
	遠藤 慎也	健康学部健康マネジメント学科 スポーツ医科学研究所
	遠藤 実美子	ウェルネスカレッジオフィス
セミナー	高野 進	体育学部競技スポーツ学科 体育学研究科
	井上 康生	スポーツプロモーションセンター
	勝田 隆	体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科
事務局	秋吉 遼子	体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科 体育学研究科
	山田 洋 (尚属)	体育学部体育学科 体育学研究科/スポーツ医科学研究所

スポーツプロモーションセンターは、強化指定クラブへの支援と強化、学内サービス（キャンパスフィットネスセンター・プールとキャンパストレーニングセンターの管理運営、健康教室・スポーツ教室の開催や各種スポーツ大会の企画運営等）、地域との交流・生涯教育（スポーツ指導者の派遣やスポーツに関わるコンサルティング活動、地域のスポーツイベントに対する支援と協力等）が役割である²⁾。学外とのつながりも必要であることから、スポーツプロモーションセンターは、学内のどの組織よりも SPORTEC2022 に出展する組織として妥当であったと考えられる。

2) 会期前

SPORTEC には、2019 年に体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科が、2021 年に体育学研究科がブースを出展し、セミナーを実施した実績がある。そのため、過去 2 回の運営を大いに参考としながら準備を進めた。実行委員会（セミナーミーティングも含む）は、計 7 回行った（5 月 9 日、5 月 16 日、6 月 2 日、6 月 7 日、6 月 21 日、7 月 8 日、7 月 25 日）。日程調整上、全員参加は難しく、スケジュールの合う者のみの参加となったが、東海大学、スポーツプロモーションセンター、及びウェルネスカレッジの PR を行うため、研究、教育、事業の観点から、他大学にはない本学の強みを全面的に押し出すよう、実行委員会にて検討を重ねた。具体的には、どの情報をどのような方法でアピールするかを検討し、その結果、以下 6 つのテーマでポスターを掲載することとなった。

- ・東海大学スポーツプロモーションセンターの新たな取り組み
(陸川章・川邊保孝)
- ・スポーツとエコプロダクトの融合による社会貢献活動
(西垣景太・遠藤慎也・竹内友章)
- ・東海大学と総合型地域スポーツクラブの協同的な取り組み
(西垣景太・遠藤慎也・池内眞弓・野坂俊弥)
- ・誰もが気軽にスポーツのできる場としての学校

開校事業についての試み～平塚市との協同事業～

- (吉原さちえ・伊藤栄治・知念嘉史・萩裕美子)
- ・ボッチャが織りなす共生社会
(内田匡輔・吉岡尚美・西葉月)
- ・企業&大学の共同プロジェクト：スポーツフィールドから全ての人々へ
(加藤健志)

上記のポスターに加えて、本学の強みとしてオリンピックを多く輩出していることから、オリンピックのパネルの掲示、東海大学バナーの設置、産学連携チラシとブース推奨チラシの配布、サイネージに紹介動画を流すことを決定した。

また、学内周知のため、ポスター・チラシの作成や配布を行うとともに、教授会でインフォメーション等を行った（資料 1）。加えて、SPORTEC2022 出展社専用ページや事務局とのメールにて、出展エントリー、ブース装飾、招待券、搬入搬出許可証、お弁当購入等の事務手続きを継続して行った。



資料 1. 学内周知用ポスター・チラシ

3) 会期中

3日間の会期中、教職員と学生でシフトを組み、来訪者に対応した。お昼休みや休憩が十分にとれるよう、且つ欠員が出ても対応できるよう、無理のない人員配置を心がけてシフトを組んだが、新型コロナウイルス感染症の影響により、柔軟な対応が求められる時間帯もあった。ブース来訪者には、基本的に、大学院生が本学のパンフレットセット（①東海大学、②入試、③体育学部、④健康学部、⑤体育学研究科）を手渡し、各々のポスター前で説明を行った（写真2）。ポスターは、先述した6つのテーマで、計9枚掲示した。各々の研究成果や事業報告が詳細に記されていたことから、来訪者の興味関心を惹きつけた反面、情報量が多すぎるとの声も散見されたことから、今後はブースに掲示する情報のさらなる精査が必要である。

しかしながら、今まで行ってこなかった取り組みとして、ポスターデータをQRコード化し、QRコード一覧を配布（パンフレットセットに同封）した。この取り組みのねらいは、本学のブース来訪者やその関係者が、SPORTEC2022会期後もポスターを見ることができるようになるためである。ブース来訪者全員がその場で本学との連携を決定できる訳ではないため、本学の情報をSPORTEC2022後も見ることができるようになる取り組みは、有効ではないかと考えられる。



写真2. 大学院生による説明の様子

ブースでのイベントとして、2日目は高野進教授によるスプリント教室を予定していたが、人員

とタイミングを考慮し中止とした。3日目は、内田匡輔教授（体育学部体育学科）ならびに内田ゼミの学生によるボッチャ教室を開催した（写真3）。



写真3. ボッチャの様子

本学のブースには、推定ではあるが、延べ380名程度の来訪者があった。本学の教職員や学生も含んでいるが、企業、自治体、OBOG、個人的なつながりのある知人等の来訪があった。そして、ブース来訪者と積極的に名刺交換をした結果、全部で198枚の名刺を受け取った。名刺交換をできなかった人や複数枚の名刺を提供してくれた人もいたため、名刺数＝来訪者数ではないことに留意する必要がある。

本学のブース周辺には大学のブースが多くあったため、他大学の出展の様子もうかがい知ることができた。他大学のブースでは、主に職員が対応していたため、教員と学生が出展に携わっていた点は、本学の特筆すべき点であろう（写真4）。



写真4. 集合写真

4) 会期後

SPORTEC2022 終了後、主に行ったことは 2 点である。1 点目はふりかえりが目的の実行委員会の開催、2 点目は出展の効果検証である。1 点目の実行委員会は、9 月 29 日に開催された。東海大学新聞への掲載や会計報告がなされ、各担当から今回の出展を通しての意見が出され、活発な議論が展開された。

2 点目の効果検証は、SPORTEC2022 終了後に連絡をとった人の一覧を作成し、その後の進展についても共有し、効果を「見える化」した。具体的には、実行委員と関係者が入っている Teams に効果把握用の Excel を保存し、①学外者の所属先・氏名、②対応する学内者の所属・氏名、③用件、④仲介者、⑤アウトカム（コンタクト後のつながり・成果）を各々が入力した。2022 年 12 月 15 日現在、13 件報告されており、実際にクラブで企業のサービスを導入したケースや学生の就職先候補のひとつになったケースもある。また、学外とのつながりだけでなく、学内同士（例：スポーツプロモーションセンターと健康学部）でも共同事業を始めることとなった。

2) 東海大学 (n.d.) スポーツプロモーションセンター、

<https://www.u-tokai.ac.jp/campus-life/sports-education-center/> (参照日 2022 年 12 月 15 日)

Ⅲ. まとめ

マネジメントの資源である人、モノ、カネ、情報で考えると、すべて潤沢にそろっていた、もしくは十分に準備できたとは言い難い状況であった。しかし、経験として積みあがったものは確実にある。ノウハウを得た点とブース来訪者と直接やりとりし、本学への興味関心やニーズを少なからず引き出した点は、大きな収穫ではないだろうか。

今後 SPORTEC2022 の出展を継続して行うか否かは定かではないが、PDCA サイクルをまわしながら、本学の強みである資源をうまく活用していくことが重要である。加えて、出展の効果検証を継続的に冷静に行う必要がある。それが、研究教育の質を高め、本学のプレゼンスを高めていくことにつながるであろう。

文献

- 1) SPORTEC 実行委員会 (2022) 結果報告書。